

## C—14 被服の流行に関する実態調査

昭和女大文家政

大竹 この

浅野 洋子

鈴木キミ子

○伊東 順子

1. 最近における被服の流行は、われわれの被服生活のなかに大きな力を与えるようになった。この流行に関する実態を知り、被服の選択・製作指導に資する目的を以て本調査を実施した。

2. 被対象者は、18～39歳までの全国各地における職業をもつ婦人とし、有効回答数1,751通につき集計・分析し、流行が広まる手がかり・流行に対する考え方・そのとり入れ方などについて7項目、居住地の環境・身分・学歴・被服教育・性格に関する項目などを設定し面接法で調査を行なった。

3. 流行を知る手がかりは服装雑誌がもっとも多く、各年令層とも25～28%を占め、ついで街・デパート・テレビなどである。流行に対する考え方は、自分に合えば(あるいは自分に合ったところだけ)とり入れたいと思っているのが圧倒的で、ほどほどにひかえめなくらいにとり入れたいと思っているのがこれにつき、積極的にとり入れたいと思っているのは5%である。流行を実際に着用することについては、みんなが着ればとりのこされないよう流行をとり入れたいほうが55%、流行から超然として無視したいほうが20%弱、みんなにさきがけて流行の先端を切りたいほうは10%である。また地域・身分・学歴・被服教育・性格・体格などの相違によって、あまり大きな差はみられず、流行が被服生活に与える影響の大きいことがみとめられた。